

積水ハウスのキッズデザインは、 家族×「子育て」がテーマ

積水ハウスにおける
キッズデザイン受賞作品事例のご紹介から



積水ハウス株式会社 フェロー R&D本部

河崎 由美子 (かわさき ゆみこ)

1987年積水ハウス株式会社入社。高校入学までの12年間を海外で過ごした経験や子育て経験などを生かし、総合住宅研究所でキッズデザイン、ペット共生、収納、食空間など、日々の生活に密着した分野の研究開発全般に携わる。執行役員、住生活研究所長を経て2023年4月より現職。一級建築士。

はじめに

2006年5月、次世代を担う子どもたちの健やかな成長・発展につながる社会環境の創出を目的としたキッズデザイン協議会（本部：東京都港区虎ノ門）が発足しました。積水ハウスはESGのリーディングカンパニーを目指し、協議会の幹事会社として参画し、積極的に協議会活動を推進しています。

キッズデザイン協議会の3つのデザインミッション、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン」「子どもたちを産み育てやすいデザイン」に共感し、積水ハウスでも子どもが安全かつ感性豊かに育つ社会環境、子どもを産み育てやすい社会環境の創出を目指して活動を進めています。

キッズデザイン賞は、キッズデザイン協議会主催の子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度です。

キッズ・ファースト企業である積水ハウスは、キッズデザイン賞が設立された2007年の第1回目に“積水ハウスのキッズでざいん「子どもの生きる力を育む家」”がキッズデザイン賞を受賞してから17年連続して、累計116作品を受賞しています。

今回はキッズデザイン受賞作品の中から「Family Suite」と「エルミタージュクール」「積水ハウス ノイエ」をご紹介します。

積水ハウスのキッズデザイン 子育てと子育て

子どもの心身の成長を考えると、大人の視点である子育てを中心に語られがちです。でも、子どもには生まれてきた世界を感じ、学び、自身で育とうとする生来の力が備わっています。積水ハウスでは、この子ども自身の発育や知性・感性の発達に目を向け、「子育て」と呼んでいます。子どもの発達視点の「子育て」と親視点の「子育て」の2つの視座を研究ベースにすることで、「子どもの生きる力を育む住まい」提案を構築しています。



子育て家族の幸せな大空間リビング Family Suite

生活Literacy Book「子どもの生きる力を育む家」

1 2022年度 キッズデザイン賞

子育て家族の幸せな大空間リビング ～ Family Suite

Family Suite(ファミリー スイート)は強固な梁で大空間を実現する積水ハウスのダイナミックビームの技術をもとに、住生活研究所の幸せ研究から生まれた初めての商品です。

みなさんは、住まいを考えるとどのスペースから考えますか。住生活研究所では、家族が集まる空間であるリビングに着目しました。そして研究結果から、リビングにはご飯を食べる、だんらん、くつろぎなど、家族の様々なシーンがあることがわかりました。これからのリビングは、従来のLDK(L=くつろぎ、D=食事、K=調理)という単機能で住まいを考える「LDK思想」ではなく、過ごし方を縛らない「多用途空間=大きな広間」であると考えました。また、リビングでの過ごし方を調査したところ、家族がリビングで一緒に過ごす時間が長いものの「一緒にいながら、“それぞれ”ですることも少なくない」という結果になりました。

「わが家だけのリビング」は、「一緒にいて、一緒にする」「一緒にいながら思い思いに過ごす」ことが大切なことがわかりました。

広いリビングで家族が心地よい距離感でつながる暮らし

生活者の行動を24時間スケールで捉えて見える化する「生活日記調査」から、LDKまわりでは、「朝食」「おやつ」「昼食」「休憩」「夕食」「TV鑑賞」を“夫婦で一

緒にする”傾向があり、「炊事」「片付け」「読書」「パソコン」「日記」は“夫婦それぞれでする”傾向があることがわかりました。

LDKまわりの居どころづくりで大切なことは、自分にとって、家族にとって「快適」であることです。

夫婦が共に過ごすとき、それぞれが思い思いに過ごすとき、そして家族や友人と集うとき、リビングにある程度の広さがあれば、多彩な過ごし方ができます。

「リビングが20畳以上あると家族が自然に集まりやすい」といった調査結果からアイデアをふくらませる中で大事にしたのは、「家族が思い思いに過ごしていてもすぐそばにいるという感覚」でした。

家族が集まる場所を一番心地よく、一番幸せを感じる場所にするための大空間がFamily Suiteです。家族が自分たちらしく、快適に、思い思いにくつろぐ、空間と暮らしの提案です。

コロナ禍により、Family Suiteでの暮らしがさらに多様に

リモートワークや学習塾のオンライン授業が定着した今、家で過ごす時間を大切にしたいと考える方はますます増えていくのではないのでしょうか。大人がほどよい距離で見守りながら、子どもたちの自立を促す。こういった環境こそが大切で、まさにFamily Suiteと一致する思想だと感じます。

さらに、コロナ禍ならではの家族だんらんについて思索を深める中で、家庭における食事のシーンに着目し、

親子で調理を楽しみながら食育にもつなげられるようなキッチンについて研究を進めています。

キッズデザイン賞受賞により Family Suiteの魅力あらためて実感

キッズデザイン賞は製品やサービスに限らず、教育や地域とのつながりなどの社会的に意義のある取り組みも対象とする点において、他の顕彰制度とは一線を画しています。

未来ある子どもたちに幸せに暮らしてほしい、という積水ハウスの普遍的な思いを再確認し、世の中に発信することを真剣に考えるまたとない機会と感じています。家族が心地よく過ごすための家づくり。その中心にいるのはやはり子どもたちです。積水ハウスが考える家族の幸せの形とは。その一つの答えが、Family Suiteには込められています。

2 2022年度 キッズデザイン賞(奨励賞・キッズデザイン協議会会長賞) 子育て世帯の「こうだったら…」を叶える大規模賃貸住宅 ～エルミタージュクール 中庭とキッズラウンジが子育てをもっと快適に

エルミタージュクールには、子育て世帯の方々日々の暮らしの中で願う「こうだったら…」を叶える工夫が、随所にちりばめられています。建物はコの字の形をしており、敷地の中央部には一番の特徴である広々とした中庭が設けられています。中庭の広さは約230㎡。築山や水遊び用のスペースなど、小さな子どもがはだして目いっぱい駆け回れる遊び場として、入居者様にも喜んでいただいています。

屋内には、入居者様同士の助け合いや交流の場となる共用のキッズラウンジがあります。例えば緊急時にお子様を預かるような場合、このキッズラウンジは、子どもたちが退屈せずに済む待機場所に使われます。また、気心の知れたご家族が集まって憩いのひとときを過ごすといった光景も珍しくありません。

オーナー様の思いを形にしたterakoya 「学ぶ」と「教える」を意識したレイアウト

オーナー様ご家族が運営するterakoya（寺子屋）も、子育て世帯への大きな訴求ポイントでした。terakoyaは敷地の一面に住戸とは別に設計された、算数・数学専門の個人指導塾です。



子育て期のライフステージに特化した寺子屋付き賃貸住宅 エルミタージュクール

室内は10畳ほどの広さで、収納の引き戸がホワイトボードになっているほか、パソコンやプリンターの設置スペースを効率よく確保するなど、「学ぶ」と「教える」環境づくりに適したレイアウトとなっています。

生徒は入居者様だけではなくありません。地域の小中学生たちも通っているため、外部からでも出入りできるように玄関が配置されています。代々受け継がれてきたこの土地を単なる賃貸住宅にするのではなく、子どもたちと地域に役立つ場所にしたい。キッズラウンジやterakoyaには、オーナー様のそんな思いが込められています。

賃貸住宅の新しい可能性が開く。 1階住戸の魅力度がより高くなる工夫も豊富に

エルミタージュクールは全35戸。積水ハウスの賃貸住宅としては大規模な部類に入りますが、2020年に入居が始まって以来、ほぼ空きのない状態が続いています。人気の秘密は、中庭やキッズラウンジ、terakoyaだけではなく各住戸の間取りにもあります。室内の視認性を考慮しキッチンから全体が把握できるような空間構成にまとめ、動線計画は回遊性を確保。玄関やリビングの収納を充実させ、在宅ワークを想定したカウンタータイプのデスクコーナーは、コロナ禍が始まる前からプランニングされています。

集合住宅において1階はやや不利になるケースが多くなりますが、エルミタージュクールにこのような既存のイメージは当てはまりません。南北の2方向から自然光が差し込むよう設計され、中庭と面した住戸は少し背の高い壁を設けることでプライバシーを守ります。フルフラットのウッドデッキがあること、中庭から直接出入りできる扉があること、など。1階にしかないメリットが入居者様に高く評価されています。



家族それぞれのちょうどいいが見つかる家 積水ハウス ノイエ

子育て世帯の方々のニーズに特化したエルミタージュールは、賃貸住宅の新しい可能性を示唆する物件かもしれません。

3 2023年度 キッズデザイン賞(奨励賞・キッズデザイン協議会会長賞)

子育て世代へ LIFE IDEASを盛り込んだ住まい提案 ～積水ハウス ノイエ

共働きを中心とした子育て世代の家族向け、積水ハウス ノイエでは、家事を楽にして子どもと一緒に過ごす時間を楽しめるアイデアやデザインが盛り込まれた『ライフスタイルパッケージ』を提案しています。吟味を重ねてつくり上げた理想のプランの中から最適な住まいを提案し、家族みんなが楽しんで共に成長できる住まいを提供しています。

『4つのLIFE IDEAS』のコンセプトは “みんなでする”を大切に暮らす

積水ハウス ノイエの住まいづくりのコンセプト『4つのLIFE IDEAS』は、“みんなでする”を大切に暮らすです。食事はもちろん、家事も育児も収納も。誰かの仕事にしないでみんなで楽しむ。効率も上がり、家事が家族だらんの時間になります。提案しているプランには、お客様のライフスタイルに最適な暮らしのアイデアをふんだんに盛り込んでいます。

① みんなクロ みんなで収納

みんなが収納に参加できるようにクロークを生活動線上に計画的に確保すれば、散らかりにくく、片付けたくなる住まいになります。使う場所の近くに使うものに合わせた収納を確保することがポイント。さらに、どこに

何を収納しているのかわかる一覧性があれば、“みんなでする”収納が実現します。

② みんな家事 みんなで家事

家族みんな一緒に家事ができるようにすることで、楽しく、だらんの時間にもなります。また、家事を効率的にこなして時間の余裕が生まれると、忙しい生活の中でもゆったりとした素敵な時間をつくることができます。

③ みんな食べ みんなで食べる

みんなで食事をするのはもちろん、準備から後片付けまで、食に関わるすべての家事を、楽しく効率よく家族でできます。食べるシーンの演出も準備も、自分たちらしく賑やかに。

④ みんなく みんなで育児

「ファミリーステーション」は、親子で宿題・家事と一緒にできるデスクスペースです。お互いに存在を感じながら作業でき、作業中の資料などをそのままにできる継続性もメリットです。子どもの安全の確保はもちろん、発達状態に合わせて、成長を支えています。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、各企業でリモートワークの導入が急速に進み、仕事と家族・自分時間のバランスが大きく変化しました。在宅勤務の形態が普及し、家で過ごす時間も長くなることで、家族と一緒に過ごす時間の重要性を実感している方も増えています。仕事・家事・子育てと極めて多忙な共働き世代向け、時間を有効活用し家事を軽減する『4つのLIFE IDEAS』の思想がデファクトスタンダードとなり、積水ハウス ノイエが提案するライフスタイルパッケージが家族の暮らし時間にゆとりと安心を提供していきます。

■ おわりに

積水ハウスは“わが家”を世界一幸せな場所にする”というグローバルビジョンのもと、今後も子どもの安全・安心や感性の発達に向けたキッズデザイン研究に取り組み、家族のための幸せ住まいを提供していきたいと思えます。